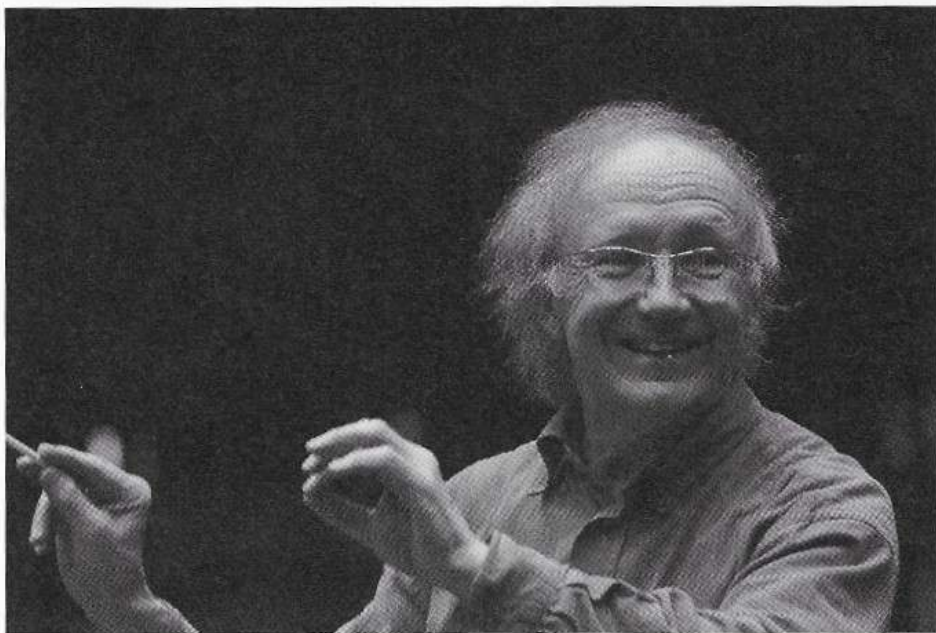


# ハインツ・ホリガー

◆指揮・オーボエ・作曲

取材・文＝中東生



© D.Vass

1939年生まれ、スイス・ランゲンタール出身。1959年ジュネーブと1961年ミュンヘン国際の両コンクールにオーボエで優勝、以後世界的に活躍。指揮者としては長年世界の主要なオーケストラや室内楽団と共演、作曲家としても国際的評価を得ている。これまでスイス音楽家協会作曲家賞、シーメンス音楽賞、チューリヒ・フェスティバル賞、ディアパソンドール、ミデム・クラシカル賞等受賞多数。

オーボエ奏者、作曲家、指揮者として現代の音楽界に多大な影響を与えてきたハインツ・ホリガーが人生の集大成となる貴重なプログラムを携えて9月に来日する。5種のプログラムには彼の84年の人生が凝縮されているのだ。「人生のほとんどの時間を、プログラム構築に使ったといっても過言ではないほど、毎回緻密に構成します。

フランス音楽や同胞の名曲等  
充実した自伝的プログラム

今回はコロナ禍で訪日が延期された間に演奏したい曲もふくらし、統一感に欠ける傾向もあるかもしれないが、自伝を編むように選曲しました。リサイタルのプログラムは9月に発売されるCDに収録した曲で構成しました。スイス人にとってフランス音

## ■公演情報

### ◎ハインツ・ホリガー オーボエ・リサイタル

〈日時・会場〉9月16日14時・横浜市青葉区民文化センター フィリアホール／17日15時・青山音楽記念館 パロックザール／19日19時・東京文化会館小ホール  
〈出演〉ハインツ・ホリガー (ob)、アントン・ケルニャック (p)

〈曲目〉ラヴェル〈ハバネラ形式の小品〉、同〈カディッシュ〉、メシアン〈ヴォカリーズ・エチュード〉、同〈初見試奏曲〉、ホリガー〈ライプライン〉、同〈コン・スランチョ〉、同〈オーボエとピアノのためのソナタ〉、同〈ピアノのためのソナチネ〉、ジョリヴェ〈オリノコ川の丸木舟を操る人の歌〉、サン＝サーンス〈うぐいす〉、ラヴェル〈ウォルター編〉「ソナチネ」

〈問合せ〉(9月16日) フィリアホール045-985-8555 / (17日) 青山音楽記念館075-393-0011 / (19日) ヒラサ・オフィス03-5727-8830

### 〈指揮〉

#### ◎大阪フィルハーモニー交響楽団

〈日時・会場〉9月29日19時／30日15時・フェスティバルホール  
〈問合せ〉(公財) 大阪フィルハーモニー協会06-6656-7711

#### ◎札幌交響楽団

〈日時・会場〉10月7日17時／8日13時・札幌コンサートホールKitara  
〈問合せ〉札幌011-520-1771

#### ◎名古屋フィルハーモニー交響楽団

〈日時・会場〉10月13日18時45分／14日16時・愛知県芸術劇場コンサートホール  
〈問合せ〉名古屋事務所052-322-2774

#### ◎水戸室内管弦楽団

〈日時・会場〉10月21日15時／22日15時・水戸芸術館コンサートホールATM  
〈問合せ〉水戸芸術館029-227-8111

楽は、第2公用語から派生している重要なジャンルなのにもかかわらず、いままで対峙した録音を残しておらず、ようやく実現したものです。ジョリヴェ以外は、メシアンが私のために作ってくれたヴォカリーズなどを中心に、すべて「声」に焦点を当て、そのなかに自分の作品を挟みました。1958年の学生時代に作曲して以来、演奏していないソナタやオーボエ・ソロの初演もあります。共演は私が最も評価しているピアニストのアントン・ケルニャックです。次にオーケストラとのプログラム。スイス人同胞の名曲を紹介する使命も感じています。フランク・マルタンが私とハーブ奏者の妻のために書いてくれた曲や(名フィル)、ルドルフ・ケルターホルンが100曲ほど作ってくれたうちの最初の曲も演奏します(水戸室内管)。フィリップ・ラシーヌは名フルート奏者ですばらしい現代曲を書くことにより、現代音楽界にもの中す作曲家です(札幌)。また、恩師の系図を受け継いでいくことも重要で、シャーンドル・ヴェレシユ先生を想って死の数カ月前に作った《薄明》や(札幌)、

彼がその師のバルトックに捧げた曲(札幌)、ヴェレシユ先生の弟子モーザーが編曲したシューベルト「アンダンテ」には、《未完成交響曲》(交響曲第7番)を聴く前に必須の瞑想的役割も託します(水戸室内管)。シューベルトは慣例的な演奏形式をくつがえす自分なりの解釈を残したく、バーゼル室内管弦楽団との交響曲全集の最後に発売されたCDに収録されている曲(《未完成》)でツアーを終えるのです」  
祖国のスイスでもこれだけ充実した「自伝的公演」を、連続して聴けることはないだろう。なぜ日本で企画されたのだろうか。  
「1970年にパウエル・ザッハーと初来日し武満徹全集を録音して以来、日本への愛情を感じています。日本の聴衆は瞑想的な集中力で私の世界を理解してくれると思います、また私の表現に規制をかけず選曲などを任せてくれる音楽事務所への理解もあり実現するのです。訪日前に体をしっかり休めて行きます」  
世界中のホリガー・ファンが日本を誇らやむことだろう。